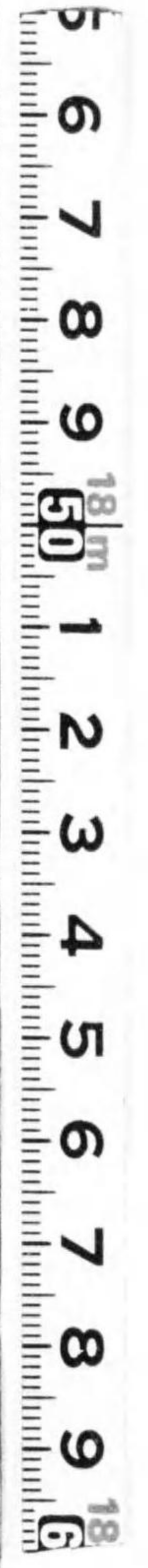


特 57

884



始



第261
884

小塩

(梗概) 京都下京に住居する者、盛りの花を觀んとて大原山につづく小塩のあたりに行きけるに、花見の人々群れる中に、花の枝をかざりて戯れ遊ぶ老人あり、如何なる人ぞと問ふに、大原や小塩の山も々ふこぢを神代の事も思ひ出づらめといへる歌の意味など説きあかり、昔男と我が身のほどをほのめかすつと姿を消しぬ。さては今の老人こそ在原業平の花に詠じて衆生濟度の姿を現はし給ふなれと待つ折から、若やぎし業平の靈現れ、伊勢物語にて名なだこる自作の歌物語などくりかへし、綿々の情緒やる方なきもの如く、紫白ふ曙の空に舞の袖をひるがへし、夢うつこの中に消え失せぬ。



シテ 老人
 後シテ 在原業平
 ワキ 都の男
 立衆 三四人
 所 山城國小塩山
 季 春

小塩

^{わかき}上^ま次^つ弟^つ
^ま花^つよ^つう^つの^つり^つふ^つ衆^つの^つま^つさ^つく^つか^つる^つや^つん

^{わかき}なる^つらん^つ ^{わかき}是^つも^つ下^つも^つ京^つも^つ通^つふ^つ住^つ居^つま^つ

る^つ考^つみ^つて^つは^つぬ^つも^つ大^つ京^つ山^つの^つ花^つ今^つを^つ成^つ成^つ

中^つの^つ程^つ子^つあ^つま^つき^つ人^つご^つを^つ伴^つひ^つ唯^つ今^つ

大^つ京^つ山^つの^つま^つさ^つく^つ ^{わかき}上^つ面^つ白^つや^つい^つづ^つく^つハ^つ阿^つ基^つ

とわうらう花も都乃名よーおへる大原山
 乃花橋 ^{わさ}今を ^ま花と夕も乃く手向
 の神も入よらうそまきの時を待て神も同
 る ^{あき}花世乃花やんは ^{あき}海りまらん
 急い程よ ^{あき}そいさや大原山よ ^{あき}花ていん
 閑も花を ^{あき}詠ふま ^{あき}ほみらん

枝折して花をなごーの神あぐら老本此
 業と人 ^{あき}や ^{あき}らん ^{あき}年 ^{あき}も ^{あき}ま ^{あき}い ^{あき}齡 ^{あき}も ^{あき}老 ^{あき}ぬ
 志ら ^{あき}い ^{あき}あ ^{あき}ま ^{あき}い ^{あき}ど ^{あき}花 ^{あき}を ^{あき}ー ^{あき}ん ^{あき}れ ^{あき}い ^{あき}物 ^{あき}も ^{あき}び ^{あき}も ^{あき}あ
 ーと ^{あき}讀 ^{あき}ー ^{あき}も ^{あき}身 ^{あき}の ^{あき}う ^{あき}へ ^{あき}い ^{あき}今 ^{あき}白 ^{あき}音 ^{あき}を ^{あき}載
 く ^{あき}色 ^{あき}光 ^{あき}よ ^{あき}あ ^{あき}い ^{あき}花 ^{あき}世 ^{あき}此 ^{あき}日 ^{あき}乃 ^{あき}長 ^{あき}米 ^{あき}ま ^{あき}い ^{あき}代
 時 ^{あき}あ ^{あき}れ ^{あき}や ^{あき}花 ^{あき}も ^{あき}ま ^{あき}い ^{あき}も ^{あき}ま ^{あき}い ^{あき}も ^{あき}ま ^{あき}い ^{あき}も ^{あき}ま ^{あき}い ^{あき}も

盛トクく四方ヨシ北キタをシ一ヒトきキとト入イよヨ自ミひヒらラちチ

色イロよヨそソふフ情ニョウ乃ノ乃ノよヨはハそソいイるル老ロウをオいイ空クウ

ひヒそソ花ハナんンもモ大ダイ東トウ山サン乃ノもモ盛トク

半ハ群クン集シツ此コノ其ソノ中ナカよヨ群クン小コ年ネン一ヒトけケたタるル

老ロウ人ニン花ハナ乃ノ枝エをオかカぎギ一ヒトはハもモをオやヤうウ小コ

見ミへヘ一ヒトはハ粧シヨウひヒ心ココロをオきキるルきキ一ヒトきキうウ見ミそソもモ

いイづヅくクよヨりリ可カなりナリ給キタマふフぞゾ 思オモひヒよヨうウずズやヤ

きキ残ゼンの中ナカみミ分ワかカくク詞ジをオうウけケ給キタマふフはハはハもモ

んンたタまマきキ山サン賤ゼンのノみミもモおオるルせセぬヌ花ハナをオきキ来キ

ぞゾとトおオ笑ウレひヒあアるル人ヒトごゴよヨ海ウミめメ一ヒトそソ山サン北キタ丁テイ

みミ似ニこコりリをオんン花ハナよヨをオきキさサぶブ一ヒトうウあアくクぶブ形カタチくク

めメやヤんンかカらラよヨ おオりリ一ヒトとト一ヒトそソはハ後ノチ説セツきキめメ

ふーやはまの埋本乃朽ヤクをてークをやん此ヤ
くもあもとも知人ぞ志クすクとせ給クひそ

あき
あゝ面白の戯や好クよをも誠クよを腹クぶち

給クドクいう格クあみ心ク詞クの奥クゆりーたを

何クと語クんも感クんふよ及クぬ

たをぶクらうクひ給クふんク 家クの妙ク

ある梢クの色クうクろふク糸クも大ク束クや小ク

境クの山ク北ク小ク松クるク束クよりクあクはクもク庭ク北ク遠ク山

様ク 里クの軒ク端クの家ク様ク 自クらクやク窓クの

梅クもクさクたク 花クさクとク目クもク紅ク乃ク ちク庭クり

あき
雲クりク八ク重ク 九ク重クの 都ク多クいクたクるクべクく

錦クとク成クふクらクりク 梅クをクおクぬクひクとクー

あき花衣きのつるも日をも月も
生あひよふ詠め哉ヤア実や大原屋小
墻乃山もかふしヤア神代もあひ志くま
かれあきか侍面白き人よ来りあ
ひくも拍子つづくとも同乃中アト花を詠
めしすほあふふ又アト只今うは号ツサ給ふまの

大原や山墻の山もなふらうの神代の車も
あひつゝあ今あうら面白うは是にあじり
なる人の詠あまきひそアト車あうら
しき俵哉是にば大原野のゆ幸にアト休ま
し給ひし時を原に申物業平乃詠
あそらうし詠も后のゆ身れ昔をよむ

かく神代乃事と云讀しと云や中ウチふ
 つまて家あうらそおそろしや土地アキツチの
 神此代より人の身乃妹背此乃浅り
 らぬ同上名跡をし海の山漁イサく乃
 布りての世此物語ヤフりくるも昔男ヒコあらま
 ふ里ぬる身の程歌きてもかひなき里

かりむげまといも甲斐カヒそたよりまやあむ
 愛ロキ山ヤ鏡カミのはしもなるまやいなる人ヒト
 家イもいもあひゆる海ウミのミ心ココロもまがひ
 も身のミ嬰オ子コ恥ハぬ花乃ハナノ友トモよたられてはらば
 浦ウラじらぬ同上まじまや浦ウラじれおひ人の
 心ココロも此花乃枝ハナノエ老オシくはハやとカぎキ

隠
 六

む 同上の神を引ひくま此面彼
面乃りままに して 半は乃る花見 同上
車の花乃轆をかぎしつきてよろるひ
はまこひとまへふおる盃の天も花
もや酔ひしん紅うつむ夕を殿く奪らふ
人の面影あまといつ失はかりく 中入

あき ぬしきや今の老人の只人なるはんえ
いるりぬお小垣乃神代代の古跡和光の
陰は葉平の花子映しつ元生海度
乃姿影し給ふぞと 思ひのそ詠も絶
追乃く光をいんるとも盛妙成法
此乃のへおれもまの特を待居りく

人々様かざりの神あまきこむ見車く
はるる月乃花よ侍ふよ 夫妻宵
一刻は金子花よ清香月に陰あままる
ときは思ふ上思ふよしをて思ふ
やなぬき 妻よひかき人あけ
まはる思はれ人きぬんれをのり

らるひうちよりえ乃葉のあまあまも
きける我や 妻日誓のあはれまり
夜思ふ乃花ま思ひをきぬんれを
子陸奥の思ふもちきり誰あま花ま
初ふ我あふれくふと清くもは思乃
あまそあまふめり又ハ夜衣

さいしなむよー海もーあまむを海く
 さいぬる接もーそ思ふんれ奥にひしき白
 雲乃下り月の都なまを東山^{ヤア}も又
 吾妻のをてーまむ人乃んや^{ヤラハ}武苑^ト
 世にふふもむきいそふ草の^焼妻も出も^{ヤラハ}
 さい里家とていぬむもさ大東や小塩小

海く通ひちの向ほに回一急草乃^{ヤア}
 忘れぬや今も名に昔男哉と人もいふ
 さいむりーかむ草昔む花も取も月も妻
 ありー清幸を^{ヤラハ}花もとりまをまー^ト
 花もされぬ^ト心や小塩乃^ト山風吹札
 きさちせやちせぬまもふ木の春あぐら

海よりめを揚よむまきるる愛うらうらよ
 ひろきめよゆめが現る世人の愛よ寐
 てり夢てかまの夜は月あまぶるの花
 夢や残るし

昭和十二年八月廿五日印刷
 昭和十二年八月三十日發行

定價金五拾錢

著作權所有

東京市下谷區上野櫻木町四十八番地
 著作者 寶生新
 發行兼印刷者 江島伊兵衛
 發行所 下掛寶生流謠本刊行會

終

